

母親の就業と父親の家事・育児参加
—夫の性別役割分業意識に着目して—

藤原真緑（日本女子大学大学院）

1. 背景と目的

本研究では日本の研究の蓄積の上に立って、まず、女性の社会進出にともない今後さらに共働き世帯が増大することを視野に収めて、共働き世帯の増大が夫の家事・育児参加に及ぼす影響を解明したい。特に、女性の「二重の負荷」を懸念する立場から、女性の「就業形態」の違いが夫の家事・育児参加にどのような影響を与えるかを検証する。

次に、共働きの進展の中で、夫も自らの価値意識の変更を余儀なくされていると考えられることから、夫の家事・育児参加の規定要因の一つである夫の性別役割分業意識(価値観、イデオロギー)の違いが夫の家事・育児参加にどのような影響を与えるかを検証する。

2. データと方法

本研究では島根県立大学が①2018年3月に島根県の浜田市、益田市で実施した「島根県の子育て期の女性の仕事と生活調査」データ、②2021年12月に益田市で実施した「生活時間研究を用いた夫の家事・育児参加の規定要因研究」調査データを用いる。調査データの利用にあたっては、「島根県立大学しまね地域研究センター」の許可を得た。

調査対象は①2018年調査が浜田市の小学生以下(12歳未満)の子どもをもつ保護者、益田市の幼稚園、保育所の子どもをもつ保護者(いずれも原則として母親を調査対象者とする)であり、全数調査である(益田市の小学校は含まれていない)。

②2021年調査は益田市の放課後児童クラブに子どもを通わせている保護者(父母)である。

3. 主な分析結果と考察

本研究において妻が長い労働時間働いている世帯ほど、夫の家事育児参加が活発であることが確認された。しかし、夫の性別役割分業意識が伝統的である世帯では、価値観の影響を受けて大幅に家事時間を減少させていた。特筆すべき知見は片働き世帯(妻が専業主婦)の伝統的な性別役割分業意識の夫の場合、長時間労働下で家事・育児時間が最も少ないと考えられたが、意外なことに同様の条件で労働時間が短い夫たちと比べ家事・育児時間が同等か長い、というものであった。上記の知見は、革新的価値観の夫に目が向けがちである研究に対して、伝統的価値観の夫の研究も等しくするべきことを示唆しているように思われた。

キーワード：夫の家事・育児参加、女性の就業、夫の性別役割分業意識